

ま え が き

本書は、アジア経済研究所において、2012年度から2013年度にかけて実施した「国際リユースと発展途上国」研究会の成果をまとめたものである。

2013年5月に策定された日本の第三次循環型社会形成推進基本計画では、リサイクルに比べて取り組みが遅れているリデュースやリユースに関する取り組みを強化することが盛り込まれた。リユースに関する具体的な取り組み状況を把握する指標としては、瓶のリユース率の向上、リユース・シェアリング市場規模のふたつが挙げられており、どちらかという、国内でのリユースの拡大をめざした内容となっている。国内でも、リサイクルショップが大型化するなど、リユースはビジネスとして成り立ってきているが、海外、とくに、発展途上国に輸出されている中古品も少なくない。衣料品、自動車、オートバイ、自転車、家電やコンピュータなどの電化製品、建設機械、農業機械などさまざまな中古品が輸出されている。

一方、有害廃棄物の越境移動に関する国際的なルールを定めているバーゼル条約では、家電やコンピュータなどの廃電気製品と中古製品の区別を示すガイドラインの作成についての議論が進んでいる。この背景には、中古品として途上国に輸入された製品が、リユースできず、廃棄され、リサイクルの過程などで環境汚染が生じているとの指摘があるためである。

これまで、アジア経済研究所からは、『アジアにおける循環資源貿易』（2005年）、『国際リサイクルをめぐる制度変容』（2010年）と、再生資源の貿易や越境移動規制についての研究をまとめてきた。これらの出版物のなかでも、中古品の輸入規制等についてふれている程度で、国際リユースの現状について明らかにするものではなかった。国内外の出版物でも、さまざまな中古品を対象としながら、国際リユースについて多角的に検討を行った研究はほとんどない。

本書は、衣服、自動車、家電、農業機械などの中古品の国際リユースにつ

いて、中古品の輸出国である日本，輸入国であるタイやベトナム，タンザニアなどでの現地調査に基づき，経済学，経済地理学，社会学，人類学など多様な角度からの研究をまとめたものである。本書が，国際リユースに関する研究がさらに進むきっかけとなることを願っている。

本書をまとめるにあたっては，国内外の中古品を取り扱っている企業，再製造を行っている企業，中古品を利用している消費者，中古品等の貿易規制を行っている各国政府の担当者等から，ヒアリング，意見交換をさせていただくなどさまざまなご協力をいただいた。また，査読者からは，有益なコメントをいただいた。執筆者を代表して，ご協力いただいた皆様に心より感謝を申し上げたい。

2014年10月

編 者